

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現行授業の目標と教育効果</p> <p>a. 経済関連講義科目 基本的な理論の枠組みと現実の経済との関係を理解してもらうことを目標としている。 「マクロ経済学」「ミクロ経済学」ではその基本的な分析ツールを理解することが目標である。効果としては、経済時事の個別の問題を理論的な枠組みの中でどのように位置づけ、経済全体の中でどのように考えればよいかを学ぶ。</p> <p>「経済学史」では、歴史上の経済学者の核となる考え方を理解し、それぞれの時代の経済問題との関連を理解することが目標である。同じ経済問題に対しても多様な考え方が存在することを理解できるように、主流派の学説だけでなく当時異端と呼ばれた非主流派の学説も適宜紹介している。</p> <p>b. 演習科目 学生同士の議論を通じて、大学での勉強で必要な各課題の問題発見から解決までを自主的にできるようにすることが目標である。効果としては、適切な課題設定の仕方と情報リテラシーを身につけることができる。また、文の作成、文章構成の方法を学び、論理的な文章を書けるようになる。</p> <p>2) 自己評価</p> <p>a. 経済関連講義科目 一科目全体の構成・各授業内での進行の7割超を基礎の理解の徹底に充てて授業・講義を進めている。1つひとつの説明については、図表・比喻・数値例など多面的な説明を心掛け、グループ課題や小レポートをほぼ毎回課すことで、学生が大卒のイメージと要点を把握できるように工夫している。多面的な説明スタイルや授業内での課題演習は学生の理解を促すのに役立っている。</p> <p>b. 演習科目 授業内外で学生同士のコミュニケーションを図る機会を設けて学生同士の議論の活発化を心がけている。友人づくりも兼ねたグループ課題も適宜取り入れることによって、相互の文章評価・課題討論を積極的におこなっている。</p>	
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>授業の分かりやすさ・学習の満足度については学生の評価はおおむね高い。</p> <p>講義はスライド中心の授業形式にしている(平成18年度より)。そのほか、動画・インターネットなど多様なメディアを活用して授業進行をしている。平成30年度からリアクション・ペーパーを全授業科目に導入し、学生とのコミュニケーションを広く深く授業に取り入れることとした。</p> <p>令和元年度から新型コロナウイルス感染予防対策として遠隔授業を取り入れている。オンデマンド型・同時双方向型授業を試行錯誤しながら取り入れた、ハイブリッド型の授業展開となった。遠隔・対面のそれぞれの長所をいかした授業構成をしていく。</p> <p>教授内容によって面接・遠隔授業の適不適や教育効果の高低がある。今後、面接授業との連続性・整合性に配慮しつつ遠隔授業を効果的に取り入れ、教育効果をより高めるハイブリッド型の授業を構築する。</p> <p>平成30年度から講義科目について、講義スライドをインターネット上の共有データとして閲覧できるようにした。スライド・資料のこの扱いについては好評であり、「復習をするようになった」他、学生の学修スタイルにも変化が見られる。現在は、授業科目ごとにLINEグループを作成し、適時の資料の提供や指示、授業時間中のアンケートの実施とその活用などをおこなっている。</p> <p>その他、近年の取組については以下のとおりである。</p> <p>年度初めに、科目間の連関を含め到達目標(学習成果)を明確に意識してもらい、折に触れて全体構成を意識させている。また、全講義科目でユニットごとの小テスト(またはレポート)を実施し、成績評価もこれを中心とした(平成27年度より)。今後とも授業進行と取り上げる内容をさらに取捨選択し到達目標を下げないよう工夫して授業構成をしていく。また、平成29年度導入したリアクション・ペーパーは学生との有意義なコミュニケーションと学期間中の授業改善等にたいへん役立っている。</p> <p>GoogleFormの活用の幅を広げ、教育効果の向上に努めている。令和4年度から履修学生数の顕著な減少に対応し、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。</p>	
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>講義科目では、予習・復習に役立てるため、授業スライド・資料・練習問題をインターネット上に共有データとして公開している。また、随時事時的なデータの追加・更新をしている。</p> <p>経済理論科目では、「易から難へ」に留意した演習問題を作成し、授業時の演習や授業外学修の課題として用いている。</p> <p>その他、共著ではあるが『経済学の現在』(昭和堂)は、従来の関連図書では見えにくかった経済学発展の歴史の流れとして理解するうえで利点があるため、「経済学史」の参考図書の1つとして活用している。</p>	
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<p>1998年度～現在に至る</p> <p>1999年度～2004年度</p> <p>2004年度</p> <p>2004年度</p> <p>2005年度～2006年度</p> <p>2003年度～現在に至る</p> <p>2013年度～現在に至る</p> <p>2016年度～現在に至る</p> <p>2018年度～2019年度</p>	<p>一般編入学試験対策(経済学・小論文・面接)指導</p> <p>男子バスケットボール部顧問</p> <p>ヤング部顧問</p> <p>第5回日経STOCKリーグ参加チーム顧問・指導</p> <p>経済理論研究会 顧問</p> <p>ダンス部(3D)顧問</p> <p>「あさひかわキッズタウン」「キナンセのいたずら」他 ボランティア指導・引率</p> <p>サッカー部顧問</p> <p>深川を歩く会 顧問</p>
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p>2000年9月</p> <p>2004～2007年9月</p>	<p>東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加</p> <p>東北 北海道地区大学一般教育研究会 参加</p>

研 究 業 績				
1 研究分野・活動 (記述式：350字以内)	研究分野：「19世紀フランス経済学と近代的経済理論の形成」 経済理論史研究はイギリス経済学をメイン・ストリームとして研究蓄積が重ねられてきたが、アダム・スミス革命(T.W.ハチスン)・限界革命といった大きな断絶を抱えている。しかし、フランス経済学発展を含めて考えてみると、革命史観によって捉えられがちな経済学発展を、知の連続的な成長として理解し直すことができる。18世紀後半のフランス経済学が経済学史上大きな役割を果たしたのと同様、19世紀に入っても経済学発展に主導的な役割をときに果たしてきた。J.-B.セーは、19世紀前半の経済学発展に大きな役割を果たし、後の限界革命の素地を作ったフランスの経済学者である。彼の経済学およびイギリス経済学との交流の研究を通して19世紀経済学発展を連続的に捉え直すことが目標である。			
2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	上記目標のために、これまでJ.-B.セーの経済学方法論・市場価格論・社会構成観・企業者論の詳細を検討してきた。企業者論は理論的に未成熟な分野でもあり、セーの理論的な貢献をその発展に役立てる必要がある。また、セーの民間主導の経済進歩観は現代的な意義も大きい。これらのセー経済学の理論的検討の他、彼と同時代のリカード・マルサスといったイギリス経済学者との理論的交流の研究蓄積は、特定分野を除いては必ずしも豊富でない。上記論点その他のイギリス経済学との関係およびその交流も今後の課題となる。これらに加えて、セーを中心として、ケネー・ワルラスといったフランス経済学の中での発展関係を明らかにすることにより、フランス経済学は学説史上の地位を確固としたものにできると考えている。			
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 特になし			
	(2) 学内 特になし			
	(3) 学外 特になし			
4 資格・特許等 (主要3件以内)				
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(学位論文) J.-B.セーの経済学方法論とその適用	単著	1996年3月	東北大学経済学部	19世紀フランスの経済学者J.-B.セーが、方法論的な検討のもとにアダム・スミスの経済理論を改変し、価格論・企業者論を明示的に経済理論の中に取り入れて近代的な経済理論の礎を築いたことを明らかにした。
(著書) ブライアン・マックリー「国際通貨制度における円の将来の役割について」(『現代の資本主義 構造と動態』pp.289-305)	共訳	1992年	御茶の水書房	国際通貨制度における日本「円」の重要性の高まりと今後の可能性に関する、ブライアン・マックリーの論文の翻訳。
国際競争力と政府の役割- M. E. ポーターのクラスター政策 (『資本主義の現実分析』pp.50-64)	単著	2000年5月	昭和堂	経営学者M. E. ポーターによる、グローバル化の進む社会における政府の役割の議論を通じて、中央・地方政府の政策ミックスとしての積極的なクラスター政策を展開することが今日の日本に求められていると論じた。
デステュット・ド・トラシ(『経済思想史辞典』p.259)	単著	2000年6月	丸善	フランス経済学者デステュット・ド・トラシの解説。
フランス経済学(『経済学の現在 v.3』pp.74-86)	単著	2002年4月	昭和堂	これまで断片的にしか論じられることのなかったフランスの経済学の歴史を自由主義と保護主義の対立を基軸にして一つの流れとして解説した。
(学術論文) セー経済学の範囲と方法	単著	1991年11月	研究年報 経済学 53 (pp.41-57)	セーの経済学方法論が古典派の方法論において一典型をなしていることを明らかにし、経済学方法論の歴史における最初期の論者として位置づけた。
セー市場価格論の形成- 『概論』各版の推移と検討	単著	1996年9月	研究年報 経済学 58 (pp.91-109)	J.-B.セーの価格論の分析が限界革命以降の近代経済学の流れの萌芽を示し、時代的な制約を乗り越え、主にマーシャルにつながる均衡論の先駆けとして明らかにした。

シンガポールの情報通信政策- IT2000 ビジョンとその現況	単著	1997年3月	南アジア研究会 10 (pp. 23-28)	先進的な情報通信政策を推進してきたシンガポールの情報社会ビジョンとその進捗状況の解説。
J.-B. セー『オルビー』における社会制度の改革	単著	2009年3月	拓殖大学論集 政治・ 経済・法律研究(11-1)	これまであまり取りあげられることのなかった、J.-B. セーの初期の著作『オルビー』を対象として、その出版経緯・概要とその特徴を検討した。
J.-B. セーの企業家と経済システム観	単著	2009年3月	拓殖大学 経営経理研究 (85)	セーの企業家論は、ミクロ的な枠組を超える意義をもち、経済における新しい主役を見いだしたものであり、経済システムの新しい見方を提示するものであったことを明らかにした。
リアル謎解きゲームを通じた地域活性化と高等教育の接点―「キナンセのいたずら」を事例にして―	単著	2024年3月	拓殖大学北海道短期 大学研究紀要 第4号 (2024年3月予定)	北海道深川市の商店街で開催されているリアル謎解きゲーム「キナンセのいたずら」には、拓殖大学北海道短期大学の学生が2016年からボランティアやゼミ活動としてゲームの運営に参画し、2023年には正課の授業科目においてより組織的な連携体制を構築した。その経緯を振り返りつつ、活動の持続可能性や教育効果の向上に関わる課題を検討した。
(その他)				
セー価値論の基本構造-『概論』初版と第2版の異同を中心にして	単著	1992年6月	経済学史学会東北部 会	『概論』初版と第2版の大幅な価値論諸章の変更における理論的継承と発展を検討し、スミス価値論からの発展と近代的理論の萌芽を明らかにした。
セー価値論の基本構造-『概論』各版の推移と検討	単著	1993年11月	経済学史学会第57回 全国大会	従来のセー価値論の解釈を問い直し、彼の著書『経済学概論』の初版から第5版までの各版異同を追跡し、同時代の経済学者と比較して非常に近代的な分析を行っていたことを明らかにして、学説史上に積極的な位置づけを与えた。
田園地域における生活文化と景観 (iii-vi)	共著	2000年11月	北空知圏振興協議会	平成12年度北育ち元気村まちづくり海外研修派遣事業として行われたヨーロッパ海外研修(スペイン・スイス・イタリア)のコーディネーター報告として、研修事業を踏まえて、今後の地域づくりを考察した。本稿では、地域での「参加と連携」を進めながら「既存資源のパッケージ化」とその積み重ねを通じて、「統一的な地域デザイン」を考え、北空知の交流産業における競争優位を開発することの重要性を提案している。
『オルビー』にみる J.-B. セーの社会認識の特徴	単著	2008年12月6日	経済学史学会北海道 部会 (北海道大学)	J.-B. セーの初期の著作『オルビー』を、晩年のセーが自著に記した「自筆メモ」を手がかりにして、セーの社会認識をしめす議論を取りあげ、その特徴を明らかにした。

研究業績 (過去3カ年分)

著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
0	0	0	0	無	有

学内運營業績

1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	1998年度	広報委員会 委員、地域・国際交流委員会 委員、 ネットワーク管理運営委員会 委員
	1999年度～2001年度、2010年度	入試広報委員会 委員
	2000年度、2009年度	教務委員会 委員
	2002年度～2003年度	入試広報委員会 委員長
	2002年度～10年度、2012～15年度	奨学生委員会 委員
	2002年度～2022年度	総合委員会 委員
	2004年度～2008年度	教務委員会 委員長
	2009年度～2016年度	自己点検・評価委員会 (委員・委員長代行・副委員長)
	2009年度～2019年度	拓殖大学北海道短期大学 ALO (短期大学基準協会)
	2011年度～2012年度	経営経済科長
	2016年度～2022年度	図書委員会 委員長
	2017年度～2020年度	自己点検・評価委員会 作業部会 委員

	2021 年度～2022 年度	情報ネットワーク運営委員会
	2023 年度	学生・地域国際交流委員会 委員
学 外 活 動 業 績		
1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通しての活動 （主要 10 件程度）	2000 年 3 月～11 月	北育ち元気村まちづくりヨーロッパ海外研修コーディネーター
	2005 年 4 月～2009 年 3 月	北海道深川西高等学校学校評議員
	2007 年 10 月～2022 年 5 月	深川市指定管理者候補者選定委員会委員・委員長
	2011 年 8 月～現在に至る	深川市有償運送運営協議会 委員・委員長
	2013 年 6 月～2017 年 5 月	旭川方面深川警察署協議会 委員
	2013 年 6 月～2021 年 5 月	深川市協働のまちづくり推進市民協議会 委員
	2014 年 5 月～現在に至る	中心市街地活性化市民会議 準会員
	2014 年 6 月～2014 年 7 月	深川市地域公共交通会議 委員長
	2014 年 6 月～2020 年度	コンピュータサービス技能評価試験北海道試験委員
	2015 年 7 月～現在に至る	深川市地域公共交通活性化協議会 委員長
	2016 年 3 月～現在に至る	深川市商店街回遊事業会議 会員
	2019 年 6 月～2021 年 3 月	深川市庁舎整備検討会委員 副委員長
	2023 年 3 月～現在に至る	深ナビ運営連絡会議 委員
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	1991 年 6 月～現在に至る	経済学史学会 会員
	2007 年 10 月～現在に至る	経済教育学会 会員